

子ども達に関するアンケート 調査結果報告書



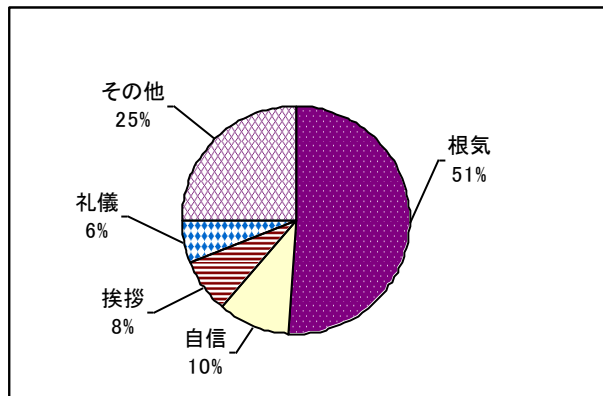
私達青年会議所の活動目的の1つに「次世代の育成」があります。そして、その活動を行う上で、「子ども達に何が 필요한のか」、まずはそれを押さえる必要があります。しかし「子ども達に必要なこと」は、その時代によって変化していると考え、今年初めに、教育関係者・保護者・地域住民など様々な立場の方からご意見をいただく為アンケート調査を実施、560名のご協力を頂き次のような結果となりました。これを基に分析した結果及び所見を報告いたします。

Q1 子ども達と接していて、無いと感じる事は？

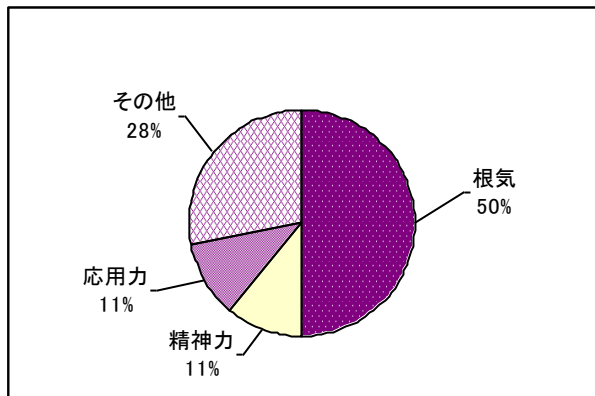
(有効回答数560名)

自信・挨拶・礼儀・応用力・感動・知恵・好奇心・根気・精神力に○をつけてください。(複数回答可)

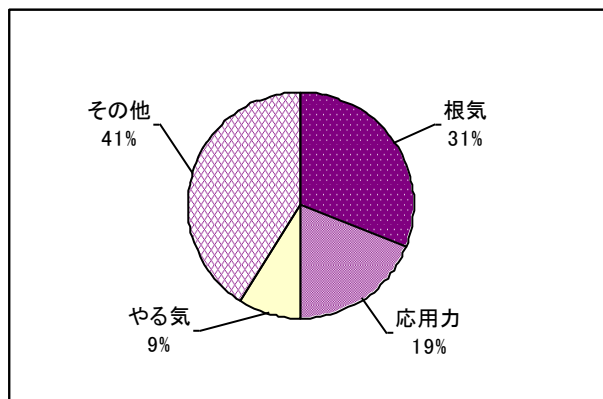
小学校教師



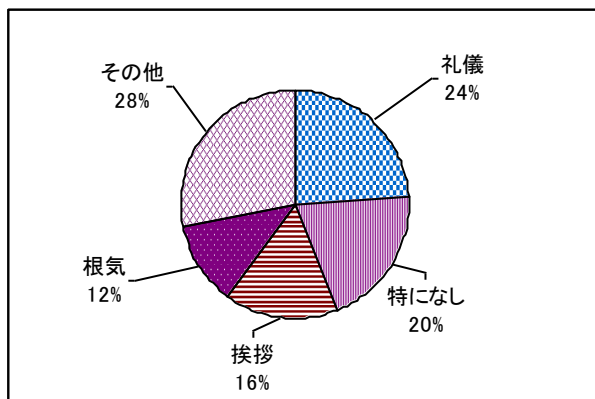
中学校教師



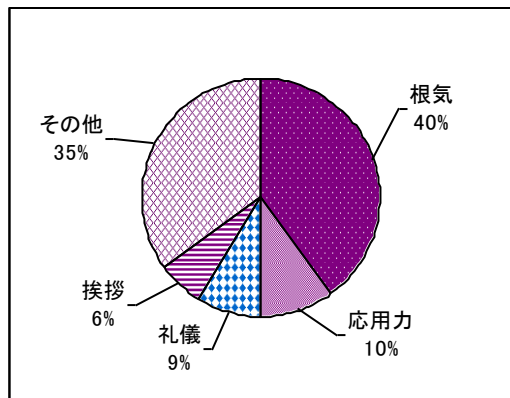
保護者



地域住民



全体(教師・保護者・地域)



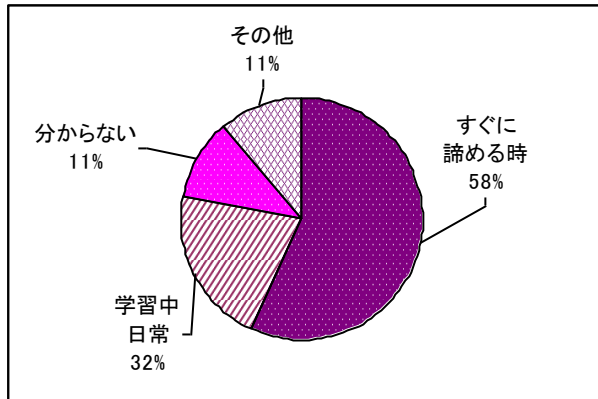
Q1 結果分析

それぞれの立場で感じている事に差が出ている。常に子ども達に接している学校教師や保護者は、子ども達に対し1番目に「根気の無さ」を指摘している。2番目以降の理由を見ると、小学校教師では挨拶や礼儀、中学校教師では精神力や応用力といったそれぞれの世代で求められることが「無い」と感じる事に挙げられている。地域住民は子ども達と接する時間が短い為、礼儀、挨拶を指摘していると思われる。これより、学校教師及び保護者が共通して1番に挙げている「根気の無さ」について分析を行い、地域住民が挙げていた「礼儀、挨拶の無さ」については後ほど分析することにする。

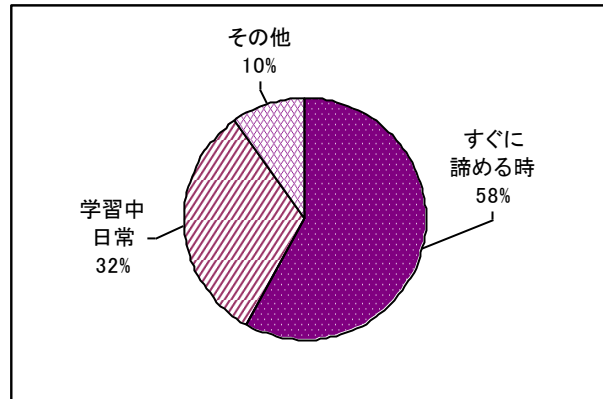
Q2 どのような時にQ1で答えたことが無いと感じますか？

☆保護者と学校の先生方がどのような時に根気の無さを感じるのか

保護者



教師



Q2結果分析:保護者、教師共にすぐに諦めてしまう様子や学習に向かう態度を理由に挙げている。

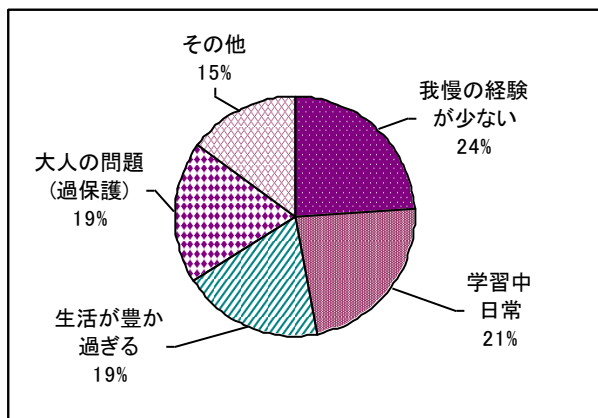
少数意見

自己解決をする時、叱った時、不登校生徒と接する時、団体行動をとる時など。

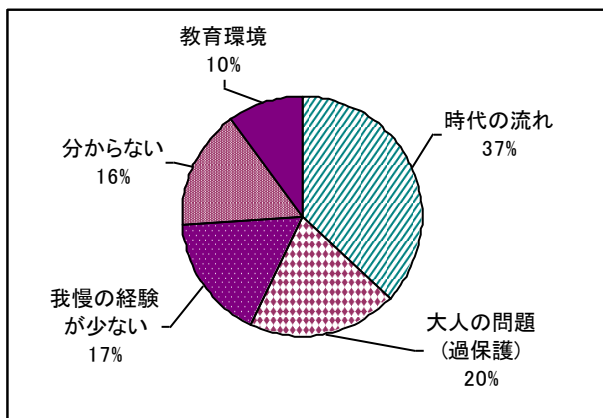
Q3 なぜそれが無くなったと思いますか？(自由記述)

☆何故根気がなくなってしまったと考えるのか

保護者



教師



Q3結果分析:それぞれの立場で思う所が異なっている。順位こそ異なるが、我慢の経験不足、大人の過保護、生活環境の豊かさ等が例に挙がっている。しかし、教師の無記入も比較的多く、教師の中でもどうこの問題に立ち向かっていけば良いのか教育現場で苦悩する様子も伺える。

少数意見

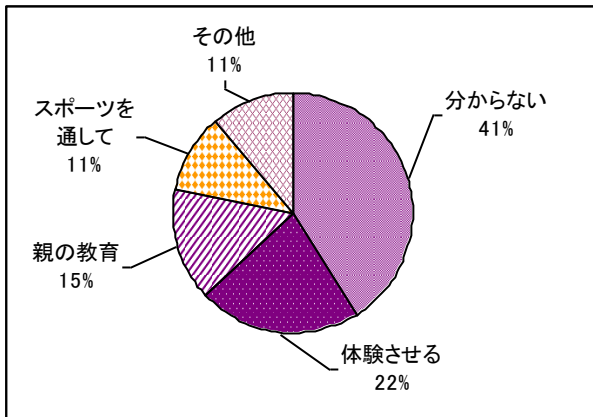
保護者:人間関係の希薄、ゆとりの無さ、目標が見つからない、教師の問題

教師 :時間やゆとりの無さ、家庭教育、競争が無くなった

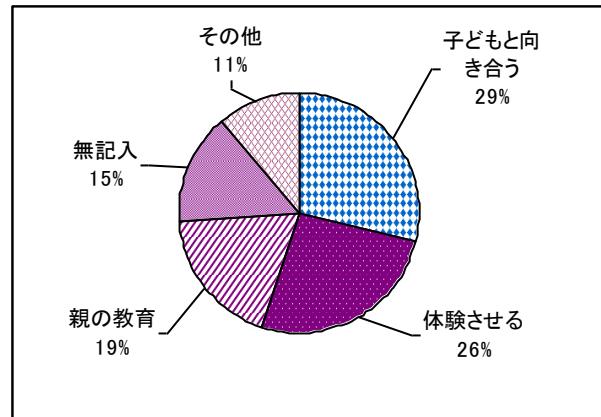
Q4 では、どのようにすれば改善されていくと思いますか?(自由記述)

☆根気の無さについてどのようにすれば改善されると思うのか

保護者



教師



Q4結果分析:保護者にとって子育ては現在進行形で有るが、どのようにしてよいか親として悩む様子が見て取れる。一方、教師は改善のために教育の場で子ども達への支援と経験を積ませる両輪で進めているように思える。

少数意見

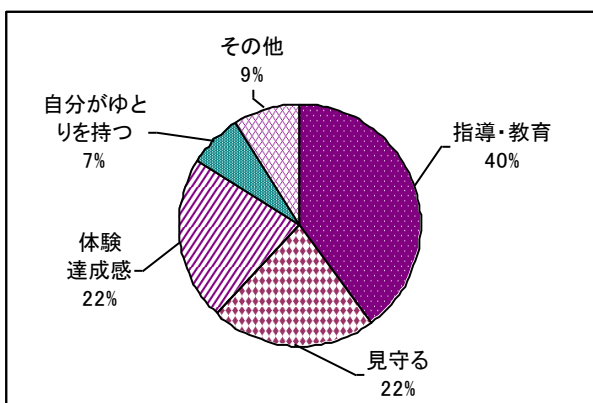
保護者:大人(保護者自身)としての自覚、モラル

教育関係者:改善自体が無理、生徒の実態把握、教育資金(税金)の投入、自信の取り戻し

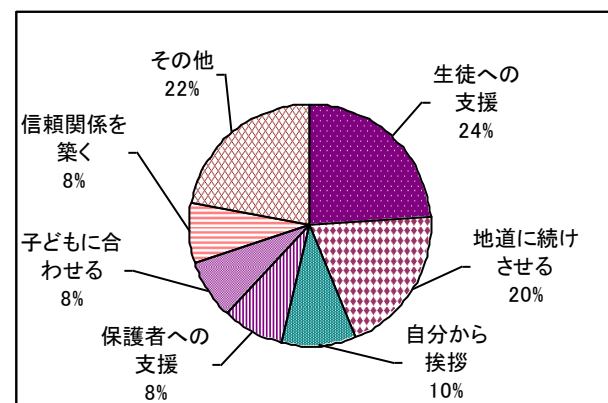
Q5 その為に、あなたはどのような行動がとれますか?また、とっていますか?(自由記述)

☆根気の無さについての改善の為にどのような行動をとれるのか

小学校教師



中学校教師



Q5結果分析:小学校においては教育(人生の先輩として伝えていくこと)を考えており、中学校からは生徒の自立を目指すこと及び教師自らが手本となる様子が伺える。

少数意見

小学校教師:大人同士の連携、クーラーに頼らない

中学校教師:責任を取らせる、解決した先を明示、行事・機会への積極的参加を促す、教師が自己研鑽に励む、遠慮しない、日々の業務で手一杯

Q6 今の子ども達の長所は？(自由記述)

小学生について

- NO.1 PC・ゲーム・携帯電話の操作が上手い
- NO.2 好奇心・流行に敏感
- NO.3 興味に対する知識が豊富

中学生について

- NO.1 PC・ゲーム・携帯電話の操作が上手い
- NO.2 身体能力が高い

Q6結果分析:いずれにおいても時代の流れにより、機械に強い事が伺える。

Q7 子ども達に望む事は？(自由記述)

小学生に対して

- NO.1 夢や希望を持ってもらいたい
- NO.2 自信・誇りを持ってもらいたい
- NO.3 自分を大事にしてもらいたい
- NO.4 チャレンジ精神を持ってもらいたい
- NO.5 一生懸命にやってもらいたい

中学生に対して

- NO.1 夢や希望を持ってもらいたい
- NO.2 礼儀や思いやりを持ってもらいたい
- NO.3 挑戦する気持ちや実行力を持って取り組んでもらいたい

Q7結果分析:子ども達に夢・希望を持って欲しいと望む部分が小・中学生の筆頭に挙がっている。

チャレンジ・挑戦することも『夢・希望』を叶える為には必要と考えてだろうか。

分析結果及び所見

子ども達に対して足りないと感じるものは、学校教師及び保護者共に挙げた回答が「根気が無い」「すぐに諦めてしまう」とのことでした。この理由として、「我慢の経験の少なさ」や「時代の流れ」を挙げていました。この改善の為に、子ども達への支援や経験させることが大事であると考えつつも、どのようにこの問題に立ち向かっていけば良いのか苦悩する様子もアンケートから伺えました。

しかし、本当に子ども達は根気が無かったり、すぐに諦めてしまうのでしょうか。例えば、野球少年やサッカー少年などのように興味の有る事や夢、目標に対して意欲を見せる子ども達を見るとそうは感じないのです。

今の大人が子どもだった頃に比べ、現代はパソコンや携帯電話などが当たり前の時代となりました。このため、情報化社会となった今、私達は手軽に回答を導き出せる便利な世の中になりました。大人は子ども達に「夢や希望を持ってもらいたい」と望んでも、この情報化社会では答えに簡単にアクセス出来るようになり、「どうせこういう結果になるから」とアクセス方法に長けた子ども達が行動を起こす前に終わらせてしまう事が有るかも知れません。また、大人も自身の人生経験やアクセス結果等から「どうせこういう結果になるからやめておきなさい」と、いつの間にか大人の尺度で大人が子ども達の可能性の芽を摘んでしまっているのかも知れません。

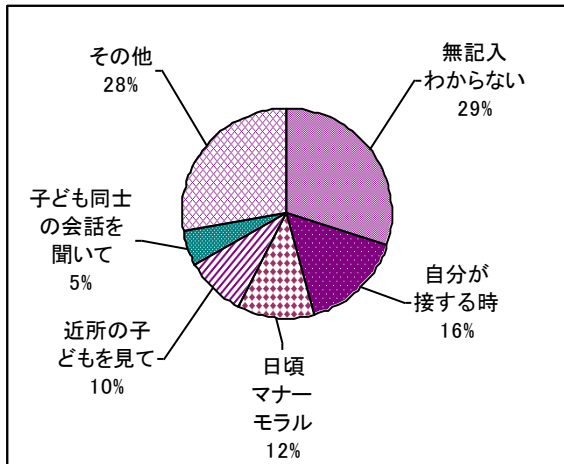
この改善の為に、子ども達の好奇心や夢、目標などを明確にし、その為の努力を地道に続けさせ、子ども達が壁にぶつかった時、良き理解者、人生の先輩として、単純にやめさせるのではなく解決の為のアプローチ方法を正しく示してあげる事、子ども達の可能性を信じる事が結果として子ども達に対する支援であり、見守る事に繋がると示唆されました。

地域住民アンケート集計分析結果

Q1 子ども達と接していて、無いと感じる事は？

礼儀24% 特になし20% 挨拶16% 根気12% その他28%

Q2 どのような時に「礼儀、特になし、挨拶が無い」と感じるのか？



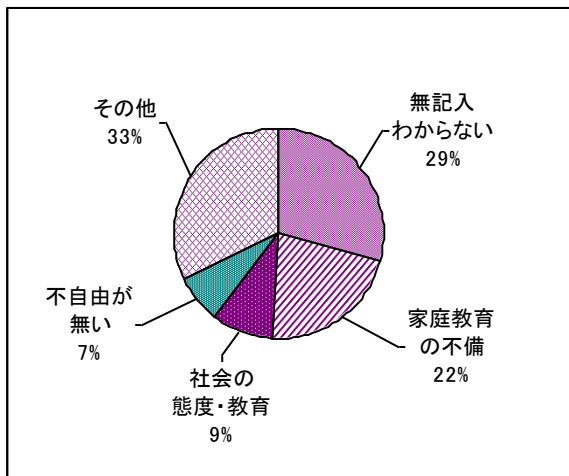
Q2 結果分析

多数を占めた回答が「無記入、分からない」「(何と無く)近所の子も達を見ていてそう感じる」であった。子ども達と接した際、自分から声を子ども達に掛けても挨拶や返事が戻ってこなかったり、公共交通機関を利用している際に騒いでいたり、歩道や道路等をふさぐよう道一杯に広がって歩く、お礼を言わないなどのマナー・モラル面を指摘する声も多かった。

少数意見

職場体験に来た子ども達を見てそう感じた。
子どもが大人に接している様子を観てそう感じた。
知らない人に声を掛けられても無視をするという教育。
団体行動をしている時。

Q3 何故、礼儀、挨拶が無くなったと思いますか？



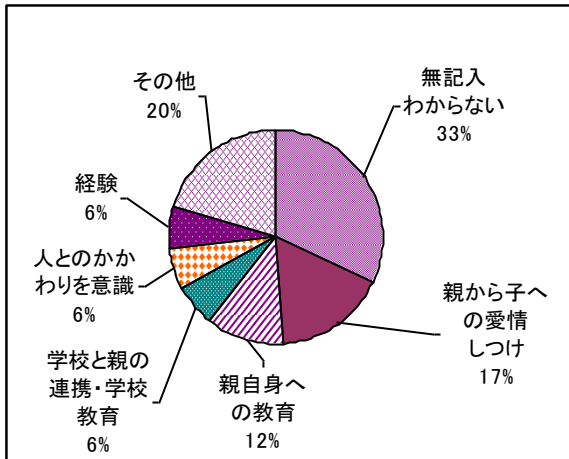
Q3 結果分析

Q2同様「無記入、分からない」を理由とする点が多かったものの、家庭で親が子ども達と接する機会が少なくなっている分、親が子どもに教育出来ていないのでは？又は現在親の世代の人たちが子どもだった時分にその親(今の子ども達の祖父母の世代)から社会に対する教育を受けていないから、成長していざ大人になった時、その教育の重要性を自分の子どもに教える事が出来ないのでは？と言う声が多かった。

少数意見

今の子ども達はテレビ、ゲームで育ったから。
親が過保護だから。大人が他人の子どもを叱れないから。
見本となる大人がいない。地域の活力がなくなったから。
政治の問題。子ども同士の繋がりが薄れたから。

Q4 どのようにすれば改善されると思いますか？



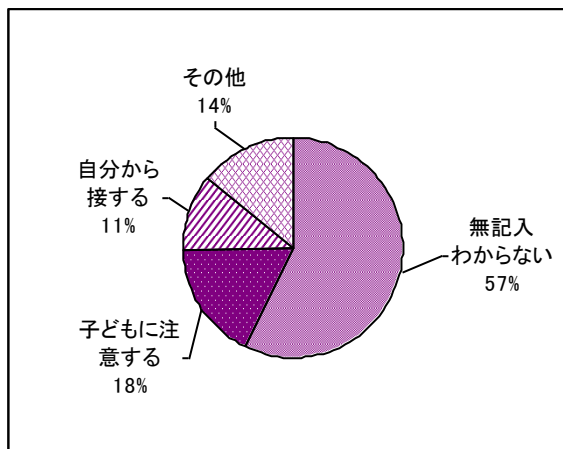
Q4 結果分析

子ども達の問題は子ども達に原因があるという声よりも親に原因があるのではとみているようである。親から子ども達に対し愛情を持って接し、何か子ども達が望むことがあるなら無事終わるのを見届けてあげる、子どもが好き放題するのではなく一定のルールを定めて何かをさせるなどのしつけも必要であるとの意見が多かった。その為には親自身も子育てに関心を持ち、また、子は親を見て育つので親自身も勉強して成長するところを期待するようであった。

少数意見

親、祖父母との会話を増やす。親が子どもに関心を持つ。
テレビ、ゲームの制限をする。現状維持でよい。
読書をする。大人の意識を変える。改善が難しい。
子ども同士が接する機会を持つ。

Q5 礼儀、挨拶が無くなった点を改善する為にあなたはどのような行動が取れますか？



Q5 結果分析

「無記入、分からない」とする回答が圧倒的であった。しかし、子どもへの注意や教育をしていかれると考える場面は地域活動等様々ではあるが、接する機会に応じて行なっていくようである。子どもに対する注意や教育をするためにも、大人自身が子ども達の手本となれるよう自分から挨拶をしていくことも重要であると考えているようである。

少数意見

子どもの親を注意する。親や大人への教育をする。
行動自体を諦めた。時代の流れから出来ない。
学校への提言や募金をする。

Q6 今の子ども達の長所は？

「無記入、分からない、特に無い」と回答する方が他の質問と同様に多い。

今の世相を見て、携帯電話、パソコン、ゲームに長けていると考える方が多かった。また、好奇心については自分が興味を持ったものについてのみというネガティブな面を強調しての回答であった。その中でも物事を吸収しようとする力、挨拶をしようとする様子などポジティブ面を評価する方もいた。

少数意見

おしゃれなどの自己表現。子ども達の長所が無い。屁理屈、口が達者。親が留守中の過ごし方。面倒見が良い。親への感謝。大人と対等に話す。応用力。やる気。ほんわかしている。バランス感覚がある。今も昔も変わらない。

Q7 子ども達に望むことは？

「特になし、無記入」の回答が多いのは、これまでの傾向と変わりなかったが、子ども達に対しそれぞれの思いがある中、「思いやり、礼儀、人や地域とのつながり」を挙げる意見が多くあった。また、子どもの時だからこそ出来ること(外で遊ぶこと、健全に育つこと)についても望む意見があった。

少数意見

夢や希望の為の努力をする。毎日一生懸命あってほしい。楽しく生きてほしい。感動や好奇心を持ってほしい。得意な点を伸ばしてほしい。精神力をつけてほしい。社会の厳しさを感じてほしい。ハングリー精神を持ってほしい。チャレンジ精神を持ってほしい。自信を持ってほしい。今も昔も変わっていない。笑顔でいてほしい。日本人としての誇りを持ってほしい。子ども達が変わると社会が変わる。

分析結果及び所見

地域住民は多くの設問において「無記入、分からない」と回答するものが多く、その中でも、主として礼儀及び挨拶の無さを指摘する声、具体的には公共交通機関の利用マナーや、歩道などを通行する際のマナーといった指摘などが多くありました。これは、保護者や教師と比べて子ども達と接する時間が限られるためであろうとも推測出来ます。

地域住民は、礼儀及び挨拶の無さに対して子ども達が問題なのではなく、子ども達を今育てている親が子どもだった頃、十分な教育を受けていないことに問題があると考えています。いざ親の世代になった時、礼儀やマナーといった道德教育の重要性を親自身が理解していないのではないかと危惧しているようです。子ども達の成長のためには親自身が成長することが重要であり、また親自身の成長のためには子育てに関心を持ち、子ども達と向き合う必要があると考えます。子ども達にとって重要な点を大人が学び、大人が子ども達の手本になっていく、言わば「親の背中を見て育つ」事も必要ではないかと言う事が示唆されました。

そういった想いの中で地域住民としては子ども達に「地域との繋がり」を期待する気持ちと、今の子ども達は忙し過ぎるから、ほんの少し手を休め、子どもの時だからこそ出来る遊びなどをしてほしいと望むように感じられました。

アンケートの分析結果及びその結果を踏まえて行なった富士登山事業から得られた考察から、以下のとおり御報告致します。

アンケートから今の子ども達は、「興味があることに対して非常に好奇心旺盛に知識を深め、柔軟に対応している」というプラス面に対して、物事をやる前からあきらめる、またやったとしてもすぐにあきらめてしまう「根気の無さ」がマイナス面として上げられました。その原因として、欲しいものを簡単に手に入れられる現代の生活環境や、子どもがやろうとしていることに対して、親や周りの大人が必要以上に手を出してしまっている点があるようです。

確かに、現代は解決の糸口にたどり着くことは出来ます。しかし、苦手なことや難しいことはあきらめる、また、自分の力でやろうとせず始めから誰かにやってもらおうと考える。これで良いのでしょうか。大きな夢や目標を達成するためには、辛いこと、苦しいことが数多くあり、そのような時にあきらめるのではなく、自らの力でその壁を乗り越えようと挑戦し、努力したからこそ、夢や目標をつかむことが出来るはずです。

そこで、「挑戦すること」これは子ども達が成長をしていく中において非常に重要なことだと考え、「挑戦するからこそ成長する～富士登山～」をテーマとする富士登山を実施しました。

「富士山登頂」という大きな目標を達成させる為に、どのような知識・準備が必要なのか、子ども達自身に考えてもらうため、しおりには最低限のことだけを記載し、登山の装備や富士山の情報などは各自で調査してもらうことにしました。しかし、子ども達にとってしおりを見ただけでは何が必要で、何が不用なのか判断することが出来ません。このため、事前説明会やオリエンテーション、船橋フェイスビル非常階段を登山に見立てた登頂疑似体験等を通じて、目標を達成させる為の様々な力を経験の中から自ら考え、感じ取ってもらうこととしました。これは子ども達の今後の人生において、様々な困難に直面した際にも応用出来るようにと考えた為です。

そして、各自が準備を整え富士山に挑戦しました。1日目は全員が8合目山小屋まで到達できたのですが、2日目は体調不良や悪天候が重なり参加者の約半数が途中下山という結果になってしまいました。しかし、途中下山をした子ども達も、登頂を簡単にあきらめたわけではありませんでした。途中下山を告げられた彼らは「最後までまだ行ける」「登頂させてほしい」「ここであきらめたくない」と私達に詰め寄って来ました。しかし、私達は彼らの人生をこの富士登山たった一つで棒に振る訳にもいかず、首を縦に振る事は出来ませんでした。

私達は彼らを見て、「この子達はあきらめやすくななどないし、決して根気が無い訳でもない。」と感じました。ただ、日常において根気が無いように見えるのは、今回のような明確な目標を見出せず、熱心になれるものが見つからないからだとも感じました。

本事業で富士山登頂が達成出来た子にとってはこの経験をもとに次のステップに進むこと、残念ながら登頂出来ずに終わった子にとっては何故達成出来なかったのかを再考し、同様の困難に立ち向かえる力を付けて頂くことを願って止みません。また、所見にも記載しましたが、「子ども達の好奇心や夢、目標を明確にし、子ども達が壁にぶつかった時、良き理解者、人生の先輩として、解決の為のアプローチ方法を正しく示してあげること、子ども達の可能性を信じること、大人自身も成長することが私達大人の役目である」これを、当青年会議所の所見とさせていただきます。最後になりますが、アンケートにご協力頂きました多くの皆様へ、心より御礼申し上げます。

2011年度社団法人船橋青年会議所

「子ども達に関するアンケート調査結果報告書」は当青年会議所ホームページからもダウンロードできますのでご利用下さい。(<http://www.funabashijc.or.jp/>)